

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 超大並列計算機による社会現象シミュレーションの管理・実行フレームワーク
2. 研究代表者： 野田 五十樹（国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター 総括研究主幹）
3. 中間評価結果

当初計画に沿って着実に研究が進展しており、現時点での成果も期待された水準にある。チームの目標は大規模な社会システムシミュレーションに向けたミドルウェアの開発であるが、標準的なものにとどまっており、ポストペタスケール高性能計算に資するシステムソフトウェア技術の創出という本領域の目標からすると物足りないという指摘もある。むしろ、このチームの強みは実際に社会シミュレーションを行っている研究者との協働であり、開発したミドルウェアを使ってインパクトのある結果を出していくことが、ミドルウェアの価値を高めることにもなると考える。実際の社会シミュレーション自体の結果は本領域のテーマではないが、実際の社会シミュレーションを進めることにより、開発しているミドルウェアの改善、高度化を期待したい。同時に、ミドルウェアのフレームワークとして何が必要なのかを再検討し、開発しているミドルウェアの優位性を実証してほしい。

これからの方向性として、大規模な社会シミュレーションにおいて実証していくことが望まれる。そのための研究費の用途については小規模なクラスタを整備するよりもクラウドやスパコンセンターの計算資源を利用することを推奨する意見があった。